

大会名称: **高松宮記念杯 第48回全日本実業団バスケットボール選手権大会**  
**東日本大震災復興支援**

開催場所: **仙台市体育館 Cコート**

試合区分: **No. 80 男子 準決勝**

期 日: **2016(H28)年2月14日(日)**

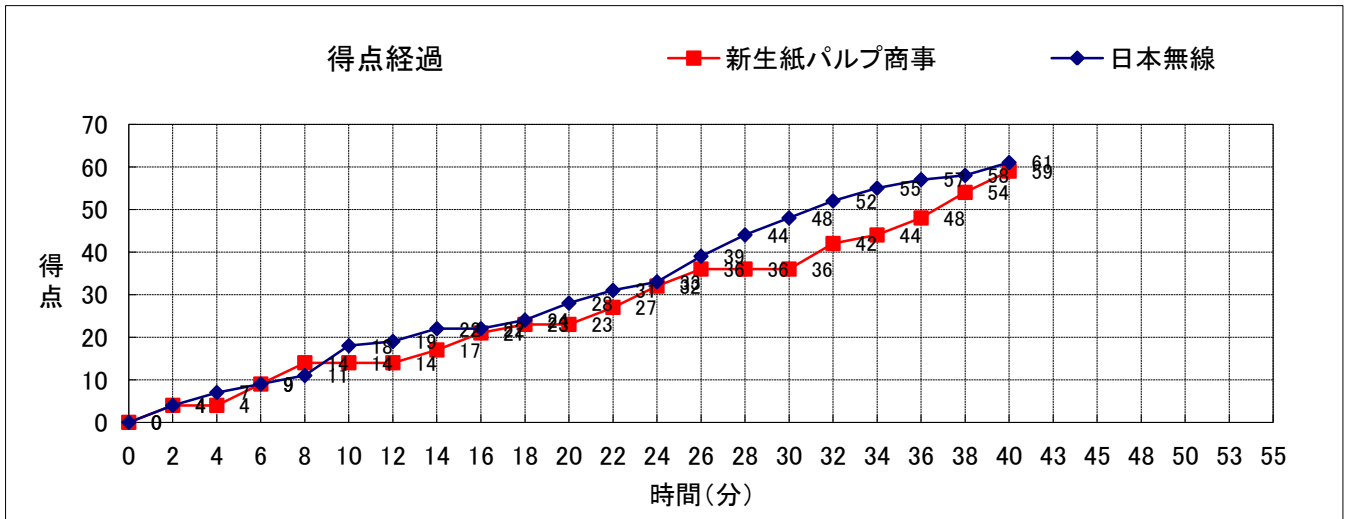
主審: **石田 祐二**

開始時間: **10:00**

副審: **細田 知宏:古川 俊和**

日本無線		○	18 - 14 10 - 9 20 - 13 13 - 23 - - -					●	新生紙パルプ商事						
(関東5位)		61						59	(関東3位)						
NO.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	NO.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
1	*	福田 大佑	15	1	4	4	3	0	*	流田 和輝	6	0	3	0	1
2	*	福田 侑介	8	1	1	3	2	3		立花 大介	0	0	0	0	1
3		会川 剛史	-	-	-	-	-	4	*	高崎 陽平	14	2	4	0	2
6	*	鈴木 伸之	19	4	3	1	3	5		近森 洋介	0	0	0	0	0
7		松林 弘祐	-	-	-	-	-	6		高田 歳也	14	2	2	4	2
9	*	小林 純也	8	1	2	1	4	7		山本 洋平	-	-	-	-	-
11		藤井 祐	-	-	-	-	-	8	*	出羽 峻一	2	0	1	0	2
15		近藤 大	2	0	0	2	0	10		奥 利孝	-	-	-	-	-
19		三原 大樹	0	0	0	0	1	14		有田 一哉	-	-	-	-	-
24		菅原 康平	-	-	-	-	-	27	*	宇田川 一馬	16	0	8	0	3
25		尾崎 智則	-	-	-	-	-	33		遠藤 純二郎	0	0	0	0	1
27		有田 拓矢	-	-	-	-	-	35		荒木 貴博	-	-	-	-	-
31	*	那谷 一樹	9	0	4	1	2	37		加藤 寛樹	0	0	0	0	1
34		樋渡 大樹	-	-	-	-	-	55		大熊 俊喜	-	-	-	-	-
58		鎌田 晃輔	-	-	-	-	-	61	*	坂口 貫	7	0	3	1	2
コーチ		尾崎 智則 / TEAM						コーチ		奥 利孝 / TEAM					
		合計	61	7	14	12	15			合計	59	4	21	5	15

S: スターター    PTS: ポイント    3P: 3ポイントシュート    2P: 2ポイントシュート    FT: フリースロー    F: ファウル  
 一般社団法人日本実業団バスケットボール連盟



大会名称: **高松宮記念杯 第48回全日本実業団バスケットボール選手権大会  
東日本大震災復興支援**

開催場所: **仙台市体育館 Cコート**

試合区分: **No. 80 男子 準決勝**

期 日: **2016(H28)年2月14日(日)**

主審: **石田 祐二**

開始時間: **10:00**

副審: **細田 知宏:古川 俊和**

<b>日本無線</b> (関東5位)	○ <b>61</b>	18 - 14 10 - 9 20 - 13 13 - 23 - - -	● <b>59</b>	<b>新生紙パルプ商事</b> (関東3位)
-----------------------	----------------	--	----------------	---------------------------

1Q:両チームともマンツーマンでスタート。新生#4高崎のミドルで先制。すかさず無線は#31那谷のミドルで同点としゲームは動いたが、無線は新生の激しいディフェンスにより24秒オーバータイムを取られる。その後、無線#6鈴木のミドル・3Pで新生を引き離すが、新生はオフェンスリバウンドの連続で点数を重ね一進一退の攻防。新生は体格を生かしゴール下でのポイントを重ねていくが、無線#6鈴木の本目の3Pで逆転。最後残り1秒で無線は#1福田(大)の1対1からドライブで切り込み18-14のリードで終了。

2Q:新生はハーフコート全体を使ったパス回しによりノーマークでシュートを放つが決まらず。無線はファールで得たフリースローで得点を重ねていく。しかし、両チームとも外角からのシュートがなかなか決まらない。残り4分50秒、新生のブレイクにより無線すかさずタイムアウト。無線は#1福田(大)にボールを集め、外角からのシュート・ドライブを仕掛けるがなかなか得点に結びつかず。残り2分には無線#1福田(大)が3個目のファールでベンチへ下がるも、#2福田(侑)がフリースローとミドルを決めて、前半は28-23(2Q:10-9)で無線リードで終了。

3Q:新生#27宇田川のミドル・ゴール下、#4高崎の3Pで得点差を縮める。無線は外角からのシュートを放つがなかなか決まらない中、#2福田(侑)が3Pを沈める。新生は外角シュートが外れるもリバウンドからのセカンドチャンスや、パスカットからのブレイクで点差を縮め、残り5分25秒#61坂口のリバウンドショットで逆転する。残り5分13秒、無線のタイムアウト後、無線は#1福田(大)と#6鈴木の連続3Pで再びリードする。新生はすかさずタイムアウトを取るが、無線#6鈴木の本目3P・ミドル、#9小林のミドルからの連続シュートで点差を広げる。新生はオフェンスリバウンドでセカンドチャンスを狙うが得点に繋がらず。無線は#6鈴木の連続シュートで点差を一気に広げ、48-36(第3Q:20-13)で無線リードで終了。

4Q:新生#4高崎のミドルで先制。無線は第3Q終盤からの勢いを継続する中、新生も#6高田・#27宇田川のシュートでついていく展開。無線は#9小林の3Pで離そうとするが、新生#27宇田川・#4高崎のシュートで応戦する。残り3分でお互いチームファールが5個に積み上がる中、新生は激しいディフェンスからブレイクするなど着実に点差を縮め、残り1分34秒、無線が2点差に詰め寄せられたところすかさずタイムアウト。激しいディフェンスで得点を阻もうとするが、残り13秒、新生#6高田が3Pを決めて同点。ここで無線はタイムアウトを取り、最後の攻撃の確認をし、結果、巧みな連続パスから無線#31那谷のゴール下ブザービートで勝ち越し、61-59(4Q:13-23)で無線が勝利を収めた。